

◎特別支援学校（知的障害）

児童が見通しをもって制作活動に取り組めるための ICT 機器の活用と工夫
～児童の制作意欲を高める図画工作科の実践～

1 教科等名及び学部・学年

- (1) 教科等名 図画工作科
- (2) 学部・学年 小学部 1 年、2 年

2 題材のねらい及び計画

- (1) 題材名 「どんぐりクッキーを作ろう」「クリスマスツリーを作ろう」
「帽子を作ろう」

(2) 題材のねらい

- ・ 工作を楽しんで作ろうとする。
- ・ 自然の素材に親しみ、自分なりに配置する。

(3) 指導計画

次 (配時)	主な学習活動	活用する ICT 等支援機器 (アプリ名)等
一 (1)	・ 紙粘土で型抜きする。 ・ どんぐりを埋め込む。	iPad、AppleTV (ビデオ、「TouchColor」、「Keynote」)
二 (1)	・ 台紙に木の枝やどんぐりを並べて 貼りつける。	iPad、AppleTV (ビデオ、「TouchColor」、「Keynote」)
三 (1)	・ 紙の三角帽子に飾りをつける。 ・ 帽子をかぶって写真を撮る。 ・ 友だちの作品を鑑賞する。	iPad、AppleTV (ビデオ、「TouchColor」、「Keynote」、カ メラ)

3 授業での活用実践

(1) 活用のねらい

- ・ 作品の作り方について見通しをもち、進んで作ろうとする。

(2) 児童の実態

- ・ 小学部 1・2 年 12 名（男子 10 名、女子 2 名）
- ・ コミュニケーション、言語理解、発語、基本的動作等、児童の実態には大きな幅がある。
- ・ 図画工作では、細かい制作活動が好きで、黙々と続ける児童から、素材に触れることも不安で、教師と一緒に制作することが多い児童もいる。
- ・ 新しい制作活動では、自分の思うままに始める児童や全く触ろうとしない児童も見られるが、毎月繰り返し行う制作活動を通して、手順通りに制作することは少しずつできるようになってきている。

(3) ICT 等支援機器の活用・工夫点

- ・ 作品の作り方ビデオを集合時に繰り返し流し、集まってきた児童から見られるようにした。
- ・ 見通しが持てないと不安になる児童には、あらかじめ A4 一枚の作り方スライドを印刷して手元で見られるようにした。
- ・ TV 画面だけでなく、印刷したものもホワイトボードに掲示した。
- ・ 「Keynote」のスライドで使う写真には、重要な部分が出る「TouchColor」を使用して白黒＋カラー写真にした。

<写真1>制作場面



<写真2>作品



<図1>「Keynote」スライド



(4) 活用の効果および課題

- ・ 12名の集団のため、集合にも時間がかかり、その間に問題行動が起きることもあったが、早くきた児童は、作り方ビデオを見て落ち着いて待つことができた。
- ・ 新しい活動が不安な児童も見通しをもって、落ち着いて活動できた。
- ・ 授業開始前にビデオを流すので、実際の活動時間がしっかり確保できた。
- ・ いつも作り方がわからず、自分で材料をみて判断して作っていた児童が、手順通りに作ることができた。
- ・ 「iMove」、「TouchColor」、「Keynote」でのアプリを使い、iPad だけで教材作りができた。

4 改善点

(1) 改善したこと

- ・ カメラを固定する位置を工夫し、あまり近くではなく、制作活動全体が見えるような撮り方にした。
- ・ 帽子を作ろうでは、素材の色に原色を多く使った。
- ・ 帽子を作ろうでは、子ども達の作品をカメラで撮影し、鑑賞できる場を設定した。

(2) 改善後の効果

- ・ 大事な部分とそうでない部分の色がはっきりし、注目しやすくなった。
- ・ 帽子をかぶった友だちの写真を注目する児童が多かった。